

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(4/5)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
競争力と持続力を持つ交流6次化モデルの構築特区 (山梨県南アルプス市)	3.1	3.4 進捗度 ・耕作放棄面積 85% ・農業従事者 97% ・農業所得 87% ・市人口社会増減数 370% ・観光入込客数 57% ・地域資源を活用する民間企業の誘致数 33%	3.0 地域独自の取組 ・雇用創出奨励金事業 ・南アルプスブランド戦略事業 ・農業次世代人材投資事業 ・中高年の新規就農者支援事業 ・若者世帯新築支援事業 等	3.0	・規制の特例措置等を活用した事業や、国の支援措置に係る財政・税制・金融支援は活用実績がないが、地域独自の取組は相当程度、活発であると評価できる。 ・数値目標(1)「耕作放棄地面積」は増加傾向にあり、耕作放棄抑止の対策が必要である。ただし、総量が多いので、耕作放棄地をカテゴライズし、復旧の必要性の有無や緊急性などを峻別した上で対策をとる必要がある。 ・農業所得の変動について要因を分析し、それに基づいて既存農家の経営支援方策を考えることが重要である。参入企業による新産業創出よりも、その方が着実な発展となると見込まれる。 ・滞在型クライングルテンを手掛かりとして関係人口の増加を図り、定住人口の獲得に繋げていくことができればと思う。そのためには南アルプス市らしいライフスタイルを積極的に構築・提案していく必要がある。 ・人口増加が着実なので、南アルプス市自体に大きな魅力を感じている人々が増えているということも評価できる。 ・新型コロナによる経済の縮小は外生的なショックであり、またどの程度の期間継続するかわからないものの、農や食は、その中でも必ず人々が行うものであり、地域資源をうまく利用することを考えて、南アルプス市らしい6次化モデルの構築に取り組んでもらいたい。